



フードマイレージで 考える環境問題

フードマイレージとは、輸送が環境に与える負荷の視点から食のあり方をとらえることです。

フードマイレージは、重量×距離であらわします。畑から食卓までの距離が近いほどフードマイレージは小さくなり、遠いと大きくなります。遠いということは、それだけ輸送にエネルギーを使っているということなのです。世界中から食品を載せてやってくる飛行機や船舶、また国内に到着してから夜通し走る長距離トラックなど、その輸送には石油などのエネルギーが膨大に消費されています。現在の日本の食料自給率（カロリー

ベース）は40%前後です。私たちの食生活は、大量の輸入食料を長距離輸送するため、地球環境に大きな負荷をかけています。

地球環境にかける負荷が小さな食生活を送るためには、なるべく近くでとれた食料を消費すること、つまり「地産地消」が重要です。フード・マイレージは身近な食生活が地球環境と関わっていることに気づききっかけとして有効であり、さらには「旬産旬消」やなるべく食べ残しはしないといった食行動につながっていくことが大切です。



「環境セミナー」 受講者募集

普段の生活で、どれくらい環境への負担をかけているかを知ることが第一歩です。フードマイレージを学ぶことをきっかけに、環境にやさしい暮らし方を一緒に考えてみませんか？

【とき】 9月29日(土)

午後2時～4時

【ところ】 ゆめポリスセンター 2階
大会議室

【内容】 フードマイレージ学習

【講師】 公益財団法人公害地域再生センター・あおぞら財団研究員

【定員】 40人（中学生以上）

※先着順

【申込受付期間】

9月18日(火)～27日(休)

【申込先・問い合わせ】

環境政策課・伊賀市環境保全市民会議事務局

☎ 20-9105 FAX 20-9107

【問い合わせ】

環境政策課

☎ 20-9105 FAX 20-9107

分ければ資源

～ごみの適切な分別にご協力ください～

さくらリサイクルセンターでは、伊賀北部地区の一般廃棄物（可燃ごみ・資源化ごみ）を処理しています。昨年度の処理量は可燃ごみ 20,455t、資源化ごみ 3,248tでした。

家庭から排出される可燃ごみを皆さんが分別することは、資源としてのリサイクルはもちろんのこと、可燃ごみ処理のコスト削減にもつながります。

昨年度からは、可燃ごみとして分類していた容器包装プラスチックを新たな分別区分として本格的に分別収集を実施しています。また、今年度からボトル類やレジ袋も容器包装プラスチックの分別対象に加えてさらに資源化を進めています。しかし、昨年度の処理施設における分析調査結果によると分別基

準としての適合率は76.6%であり、容器包装プラスチックであるが汚れているた

めにリサイクルできないものが4.4%、そのほかの分類となるものが19.0%となっています。

市では、さらなる資源・ごみの分別徹底に向けて、各住民自治協議会から選出された『ごみ減量・リサイクル等推進委員』の皆さんと、ごみの減量や再資源化に向けた取り組みを行っています。

【問い合わせ】

清掃事業課（さくらリサイクルセンター）

☎ 20-9272 FAX 20-2575

